

平成25年一番茶実収報告

京都府農林水産技術センター
農林センター茶業研究所

1. 摘採日

仕立て法	本年	前年	前5か年	平年
自然仕立て	5月10日	5月9日	5月7日	5月7日
弧状仕立て	5月10日	5月9日	5月8日	5月7日

注) 平年は、平成6年～平成24年までの19年間の平均値

2. 生葉収量 (kg/10a)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	740.0 ± 76.1	107	892.4 ± 67.0	129	692.9 ± 62.6	100
弧状仕立て	281.3 ± 47.8	73	548.2 ± 96.6	143	383.2 ± 82.1	100

指数は前5か年平均を100とした場合の比。

3. 百芽重 (g)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	重量	指数	重量	指数	重量	指数
自然仕立て	59.4 ± 7.6	111	63.3 ± 1.2	118	53.8 ± 4.0	100
弧状仕立て	35.2 ± 5.3	71	45.2 ± 4.4	91	49.7 ± 9.4	100

4. 新芽数 (本/m²)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	451.8 ± 39.0	63	585.4 ± 72.2	82	714.4 ± 103.8	100
弧状仕立て	1415.0 ± 295.0	83	2228.3 ± 393.3	130	1714.3 ± 394.0	100

注) 自然仕立ての数値は、20cm幅帯摘みの新芽数

5. 出開き度 (%)

仕立て法	本年	前年	前5か年平均
自然仕立て	42.2	64.7	49.4
弧状仕立て	77.5	96.7	75.2

6. 概要

(1) 摘採日

本年の一番茶摘採日は、自然仕立て園が5月10日で前年より1日遅く、前5か年平均より3日遅かった。弧状仕立て園は5月10日で、前年より1日遅く、前5か年平均より2日遅かった。

(2) 生葉収量

10a当たりの生葉収量は、自然仕立て園で740.0kgと前5か年平均より多く、弧状仕立て園で281.3kgと前5か年平均より少なかった。

(3) 病害虫の発生状況

チャノホソガのフェロモントラップへの誘殺は、3月第4半旬から始まり、4月第4半旬まで平年比やや多かった。その後は、摘採期の5月第2半旬まで平年並の誘殺数となった。チャノコカクモンハマキのフェロモントラップへの誘殺は、3月第5半旬から始まり、摘採期の5月第2半旬まで平年比多い誘殺数となった。

一部の茶園では、コミカンアブラムシとチャエダシャクの発生が目立った。

(4) 周辺茶園の状況

全農京都茶市場への出荷量は、前年比で煎茶77.3%、かぶせ茶97.3%、玉露84.4%てん茶(手摘み)85.8%といずれも少なかった。(6月5日現在)